

令和5年度 第32回 全国女性建築士 連絡協議会石川大会報告

日時…令和5年7月29日(土)・30日(日)

会場…金沢市文化ホール/Zoom

テーマ 守り・育て・受け継がれる技術、手仕事 ～伝統工芸と建築～

本間恵美

(公社)日本建築士会連合会
女性委員長



令和5年度 第32回全国女性建築士連絡協議会石川大会は、全国からの会場参加を受け入れた地方開催としては2018年の高知大会以来5年ぶりに開催をいたしました。申し込みは約380名(会場約310名、オンライン約70名)でした。ご参加いただいた皆様にお礼申し上げます。

基調講演では、金沢学院大学名誉教授の大場吉美氏をお招きし、石川らしい文化でおもてなし北陸新幹線金沢駅舎は伝統工芸による「美術館のような金沢駅」をテーマにご講演いただきました。新幹線金沢駅舎待合室には、伝統的工芸品30品目236作品が展示紹介されています。展示として美しく見せること、特に全体の色の調和に気を遣われたそうです。東西を結ぶコンコースの柱にも展示がありますので、金沢駅を訪れた際には是非ご覧ください。

被災地報告では、復興道路、復興支援道路が全線開通したこ

とから、東北ブロック会としてご報告をいただきました。東日本大震災からすでに12年経ちましたが、まだまだ復興は終わっていません。女性委員会では、これからも継続して被災地の皆様に寄り添った活動を続けていきます。活動報告では、静岡県くらし・環境部建築安全推進課、建築耐震班長市川府元氏より、全国に先駆けて建物の耐震に取り組んでこられた静岡県の、TOUKAI-0の取り組みについてご報告をいただきました。一日目の全体会終了後には交流会を開催し、6県よりワンバイワン報告がありました。今年度は、2つの県から初の女性会長が誕生しましたので、島根県建築士会坪倉菜水会長にご挨拶をいただきました。二日目の6つの分科会は、会場とオンライン参加の双方でディスカッションを行ないました。

今回は、会場にたくさんの参加者を迎えることができました。久々のエクスカージョンもあり、現地参加の皆様は石川県金沢市を楽しんでいただけたのではないのでしょうか。

筆末になりましたが、石川県建築士会の皆様には、事前の準備から当日の運営、そして心のこもったおもてなしをしていただき心より感謝申し上げます。また、お手伝いいただいた東海北陸ブロックの皆様にもお礼申し上げます。

令和5年度 第32回全国女性建築士連絡協議会 アピール

1. 私たちは、今回の協議会を通し、建築士として、また、生活者としての視点から住まいづくりやまちづくりを考え、生活に潤いを与える環境づくりを目指します。
2. 私たちは、今回の基調講演を通して、建築士として、受け継がれてきた伝統技術を守り育て活かすことにより、豊かな空間づくりに取り組んでまいります。
3. 私たちは、災害報告等を通し、建築士として、被災者を思う心を忘れずに、継続して復興支援のあり方を模索し、災害時における支援活動に取り組んでまいります。
4. 私たちは、様々な専門分野の方々と連携しながら、建築士としての能力を活かし、安心安全な社会の実現のために日々研鑽してまいります。

基調講演

石川らしい文化でおもてなし 北陸新幹線金沢駅舎は 伝統工芸による「美術館のような金沢駅」

大場吉美 氏 | 金沢学院大学 名誉教授

日時…令和5年7月29日(土) 15:30~17:00

場所…金沢市文化ホール 大ホール

参加者…会場311名(うち学生19名、一般7名)



プロフィール

1946年金沢生まれ。

金沢美術工芸大学・産業デザイン学科卒業後、石川県を中心にデザイナーとして、平面から空間デザイン、イベント計画演出まで多様な表現活動を展開し、デザインの啓発に尽力。金沢市民芸術村の創設に係わるほか、金沢21世紀美術館の交流アドバイザー担当となる。数多くのプロデュースや企画デザインを実施するとともに、ニューヨーク、エジンバラ、北京などで、石川のグラフィックデザイン展をコーディネートする。

金沢学院大学名誉教授として、多年にわたりデザイン教育に携わるとともに、洋画家として石川県美術文化協会の理事長も務める。

多くの伝統工芸が取り入れられた北陸新幹線金沢駅舎がどのような土台・考え方のもとで作り上げられたのか、エピソードも交えてご講演いただきました。

講演要旨

石川・金沢の長年の念願であった北陸新幹線開業に合わせた金沢駅舎の整備において、「どういう形で金沢らしさ・石川らしさを創出することができるか」をテーマに進めました。

金沢のものづくりの風土醸成は、ずーっと繋がっている

加賀藩の工芸奨励の精神は受け継がれ、明治から令和の今日まで文化風土として根付いています。江戸期には職人文化が花開き、明治期にはものづくりのための新たな教育施設が創立されるなどその時代時代を経てきており、この地のリーダーたちは小さいながらもオンリーワンのまちづくりを提唱・啓発し、また多くのものづくり組織が情熱を傾けて活動しています。

なぜ伝統工芸による、公共空間づくりなのか

石川県は文化土壌が豊かであり、加賀藩の経済活動は伝統的地

場産業が盛んでした。それは職人文化であり、その文化気質がゆっくと進化してきており、人間活動の一つである道具づくりに工芸があり、それには自然素材、加工技術、美意識と感性、時代に求められる色や形が大切なものとされています。

石川には36品目の伝統的地場産業が指定されており、その産地形成は多くの職人による分業で成り立っています。石川の豊かな文化を遡求する魅力は「作り手の存在と活躍」がそこにあり、金沢駅舎は「その多彩な自然素材・美意識・技術を展示することこそが、石川の美を紹介するに最もふさわしい」とされ進められたものです。一方、駅はあらゆる世代が利用する交流の結節点であり、そこに多くの石川の作り手が関わるということを発想として持ち計画を進めました。

工芸とは何か、工芸都市構想 1999 [図1]

「人間活動とは何か」という根本的なところを捉え、人間活動とものづくり、そして工芸の姿の在りようを構想図に表現しましたが、それは、都市戦略として工芸による個性豊かな魅力づくりに貢献できることを表現した『伝統工芸王国石川ルネッサンス基本構想』にも繋がるものでした。石川らしい、日本らしい創造性と感性とは何か、市民が輝く、暮らしの中で生きる文化施設とした金沢市民芸術村の構想では「環境」「文化」「経済」の重層化がすべて関わり合い、世界・日本、現代・伝統の文化であることを一つの考え方としてまとめています。

現実化が、どのように進められたか

2009年に駅舎内装デザインの検討懇話会が設置され、『まちが見えるココロとカラダに気持ちがいい駅』をコンセプトとし、その後、「石川・金沢らしさが感じられる駅舎となるよう地元産材・伝統工芸品の活用に配慮」という要望のもと実施設計が進められました。2012年には駅舎内装等伝統工芸活用・推進検討会が設置され、鉄道運輸機構、施工者、組合団体、県・市などと協同し具体化の方策について検討しました。各産地の組合や技術者とデザインや製作について協議を進め、期間を1年間とし製作に取り掛かり、納品の翌月には施工、その翌月には完了という厳しいスケジュールの中で進められました。

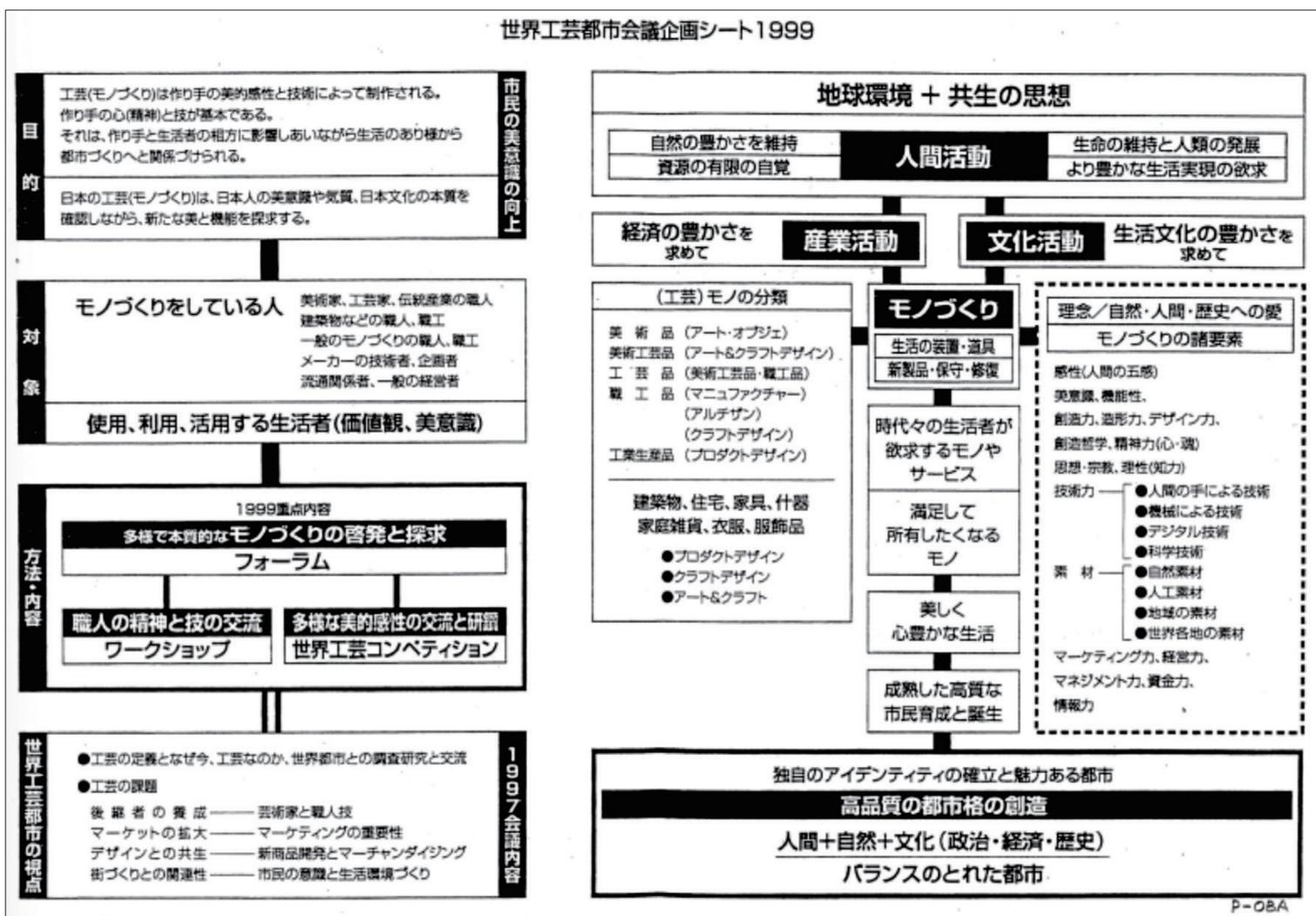


図1 世界工芸都市会議企画シート

金沢駅舎待合室およびホーム待合室に 30品目236点が完成

当初は壁の内装材として、可能な限り壁に象嵌的に設けるという考え方で、236個の穴には平面的で厚みのあまりない作品のみの設置を想定していましたが、設計JVから壁を「ふかす」ということを教えてもらい、立体的な作品の設置が可能となり、展示の幅が大きく広がりました(たとえば三絃や琴、獅子頭など)。このような意見交換・アイデア出しができる現場であったことはとても有意義でした。各作品の設置位置については、上下で視認性の違いが生じるなど各々から希望も出ましたが、その調整役を担い、結果的に皆さんにご理解を頂き、まとめることができました。[図2~4]

デザイン表現の企画提案

16センチ角に獅子頭を入れる、部分をデフォルメして入れる、太鼓は革の留め金部分をアップすれば表現できる、仏壇はディテールで表現する、和ろうそくは太いものをつくり真上や真横から見せるなど、それぞれの作品に合った魅せ方を検討しました。

金沢駅舎内装デザインと コンコースの伝統工芸品の展示計画

金沢駅は駅舎だけではなく、玄関口広場としての環境づくりにもデザイン計画がされており、大きな造形作品による空間を創出しています。[写真1・2]

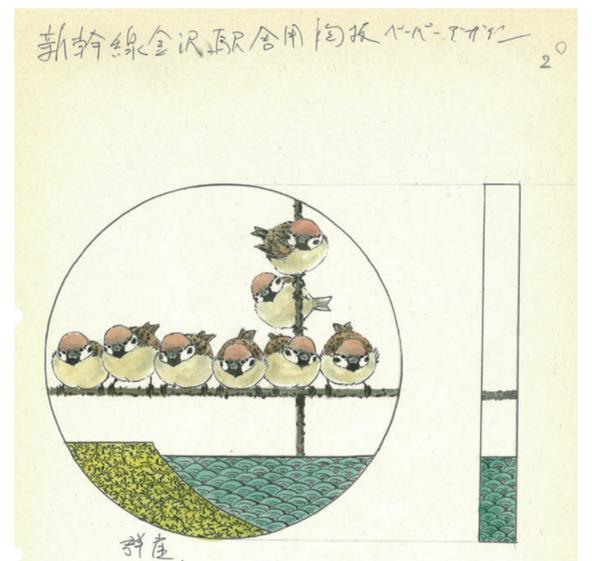
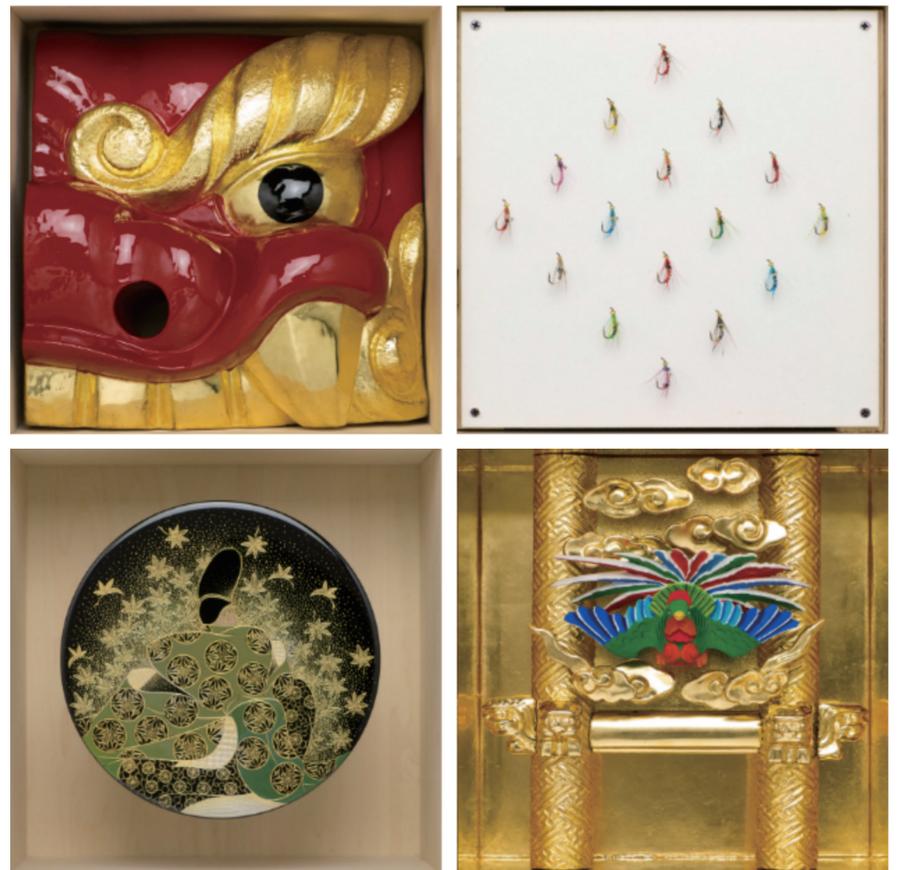


図2(右) デザイン下絵
図3(下4点) 展示実例



新幹線金沢駅舎 中2階待合室&ホーム待合室
伝統的工芸品 30品目236作品 展示紹介



※壁面には県産材の能登ヒバを使用しております。
※丸穴の作品位置を表示しており、実際の比率とは異なります。

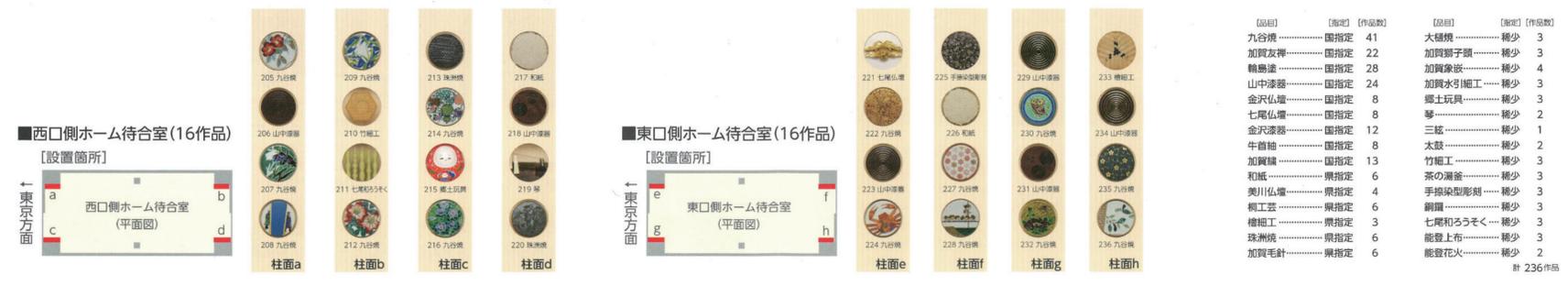


図4 待合室 30品目236作品 展示紹介

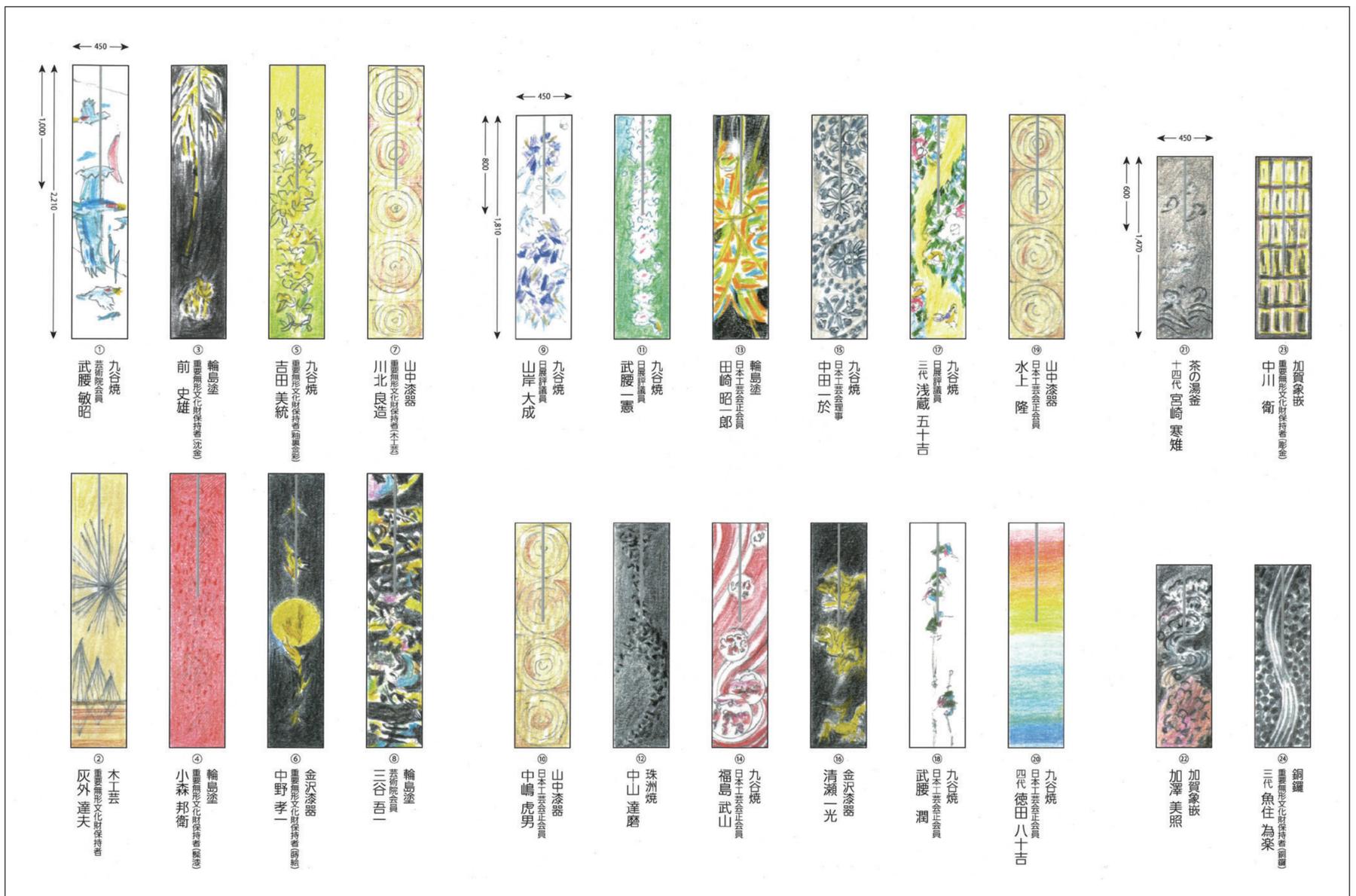


図5 コンコースの24本の柱に設置された多様な工芸作品 デザイン画

美しい石川の工芸、表現様式の魅力24 作品

東口から西口をつなぐ120mのコンコースに3種類の高さが違う柱が24本あり、人間国宝、芸術院会員などの方の作品を展示しています。製作にあたっては、各協会を通じて作り手に依頼してもらい、スケッチでイメージを共有しながら進めました。[図5]

多様な情報を発信する金沢の躍進に期待

金沢駅は都市づくりのひとつの中心として位置づけられると思います。現代感覚の豊かなエリアとして重要であり、未来に向かって文化の重層を体現できる地域として、そして文化都市、歴史都市、庭園都市として人・モノ・情報が多様に行き交い、柔らかく変容していく交流の役割を担い続けることを期待しています。

質疑応答

質問 公共空間において、美術館のように貴重なものを飾る場合に防犯上の対策はされているのでしょうか。

大場氏 施工上はガラスを嵌めたり、抜けないような設えとし、警報装置等での対応は特段していないと思います。

質問 文化のおもてなしの心に沿った参考になる建物や素晴らしいと感じた空間を教えてください。

大場氏 若いころは工芸の勉強のため、スウェーデンやデンマークなどへデザイン関係の視察へ伺ったことがありました。本当にすごいなと思ったのは、建築そのものがオブジェとして美術品として素晴らしいスペインのサグラダファミリアと、それと連続するガウディの作品群で、強く印象に持っています。建築物としてのモニュメンタリティな凄さというもの、造形、建築としての表現において必要な情熱をガウディから感じています。

質問 展示サイズの16センチ角はどのような経緯で決定したのでしょうか。

大場氏 JVの設計者と相談しながら、ぎりぎり見ることができる上限下限の高さを現場で確認しながら決めました。

質問 インダストリアルデザインと建築と似ているところがありますが、日々の生活で使われているものに対して、芸術とデザインの狭間について考えていることはありますか。

大場氏 自分は芸術家とデザインの二足の草鞋を履いており、それぞれ、自分のためとビジネスとして、その2つのことを同時並行でさせてもらってきました。機能性とかビジネスの世界で通用できるコストを含めた塩梅を感じながら仕事と作品をつくってきています。

質問 芸術的なものをつくる時と、工業的なものをつくる時では考え方は違いますか。

大場氏 まったく変えます。自分のための表現領域と他のための機能性を持ったものをつくることは違い、コストをしっかりと捉えてマネジメントをしっかりとやらないと仕事はできません。美術、表現の世界は



写真1 金沢駅 兼六園口(東口)。もてなしドームと松の雪吊り



写真2 金沢駅 金沢港口(西口)。造形作品と竹林

自分をどう高めるかということなので、自分の環境に合わせて対応できる世界です。人から依頼されて行うデザインワークとはまったく視点が変わります。

中心の点はアートとデザインはずれているが、同心円を描くと重なる部分が必要あり、その重なる部分がデザインなのかアートなのか迷う部分だと思います。

質問(感想) 金沢港クルーズターミナルや石川県立図書館などにも工芸を取り入れています。石川のものを石川に置いたからこそ、生活の中に根付いてきたものだからこそ落ち着いて見えるのであり、他県にそのまま持っていっても馴染まないのではないかと感じました。

大場氏 その通りだと思います。金沢には相応しさ、らしさがあって、空気感があります。方言なども同じだが、どこの地域でも土地柄があり、その中でどこまで共通の感性を持つかが工業デザインの世界。機能の幅で分けられているように思っています。

質問 236点の待合室の展示について、個性のある作家もいて、無記名制で展示する中で、どう配置するかというのは設計段階で相当検討されたと思いますが、現場で位置を変えたものはありましたか。

大場氏 現場で動かしたものは若干あります。基本的には丸穴の大きさと丸穴の周りの空間の寸法は、干渉しないぎりぎりの寸法を計算して設定しています。隣に強い色のものがあると色が飛ぶとか、立体感のあるものが奥まって見えるということを考慮した寸法としています。一番重要なのは色彩で、特に獅子頭の赤は強くあたるため、その位置を初めに決めてから他を配置しました。どれも大事な作品なので主張しすぎないように、かつ、主張しない(弱く)ならないようにということを意識しながら配置しました。

被災地報告

東北～復興支援道路が全線開通して

東北ブロック会 女性委員会 村越のぞみ

動画編集担当
福島県建築士会郡山支部

2011年3月11日に発生した東日本大震災から12年。今後の「3.11被災地報告」をどう続けて行くべきか模索する中で、「三陸復興道路」が青森県から宮城県まで全線開通したことから、青森～岩手～宮城～福島の沿岸部を走ったドラレコの映像を集め、1年近くかけて報告動画の制作を行い、私たちの合同発表が実現しました。

青森県は本州最北端の犠牲者が出た三沢市三沢漁港の記念碑からスタート。高い防潮堤、津波で製紙工場からトラックより大きい巨大ロール紙が散乱した道路を走り、日本一の朝市が開かれる館鼻岸壁から蕪島のある三陸復興国立公園、うみねこライン、種差海岸と、風光明媚な海岸沿いの道路を走って三陸

復興道路へ。

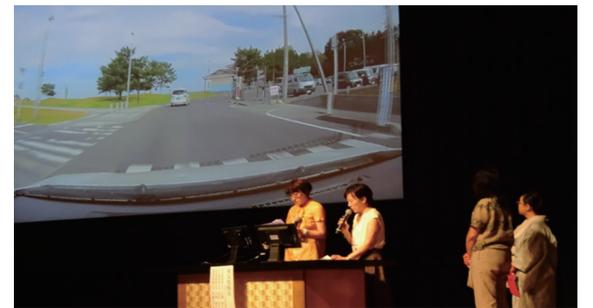
岩手県はひたすら山沿いの道路にトンネル続きの走行映像に、久慈市、田野畑村、陸前高田市のそれぞれの道の駅や思惟大橋、宮古市の津波遺構たろう観光ホテル、震災遺構高田松原タピック45の写真を組み合わせて紹介。道路が整備されて便利にはなったものの、これまで走っていた国道の風情や利用していたドライブインが閉店してしまって少し寂しい心情も紹介しました。

宮城県は気仙沼から始まり、日本一海水浴場に近い駅として知られる大谷海岸、隈研吾さん設計の南三陸さんさん商店街を通過して復興道路を南下。道の駅大谷海岸にはJR気仙沼線BRTの大谷海岸駅があることや、復

興道路では津波対策のため盛土された区間には津波避難階段が設置され、津波警報時には「避難者注意」がサインに表示されることを紹介しました。

福島県は相馬市の復興シンボル施設、尾浜こども公園からスタートし、常磐道を南下。震災以降道路脇に設置された放射線の線量計や大規模なソーラーパネル、一般道では帰還困難区域のゲートに当たってカーナビ通りには走れないこと、道路は整備されても建物は無く更地のままになっていることを紹介しました。

はじめての試みで試行錯誤の連続でしたが、東北ブロック会女性委員会は今後も「3.11のその後」を発信し続けます。



発表の様子

活動報告

〔静岡県〕静岡県における木造住宅の耐震化の取り組み

市川府元 | 静岡県くらし・環境部建築安全推進課

静岡県では、2001(平成13)年度に全国に先駆けて「プロジェクト『TOUKAI(東海、倒壊)0』事業」を創設し、市町と一体となって、1981(昭和56)年5月以前に建築された旧耐震基準の木造住宅等の耐震化を推進してきました。

そのうち「専門家による無料の耐震診断」は、市町が建築士会などの建築関係団体と委託契約を締結し、住宅所有者からの電話申込み等により「静岡県耐震診断補強相談士」による耐震診断を受けられる制度となっています。

2022(令和4)年度末までの補助事業実績は、耐震診断は累計で90,281戸、耐震補強工事への助成は25,818戸となっています。また、旧耐震基準の住宅は築40年以上が経過していることから、現在では耐震補強以外にも「建替え」や「除却」、「住み替え」に対する助

成制度も創設しており、各世帯の事情に応じた幅広いメニューを設けています。

耐震化に対する補助制度に加え、耐震化に係る周知・啓発を効果的に実施することが耐震化の促進には重要です。本県では、2025(令和7)年度末の住宅の耐震化率95%の目標達成のため、TOUKAI-0の総仕上げを図ります。

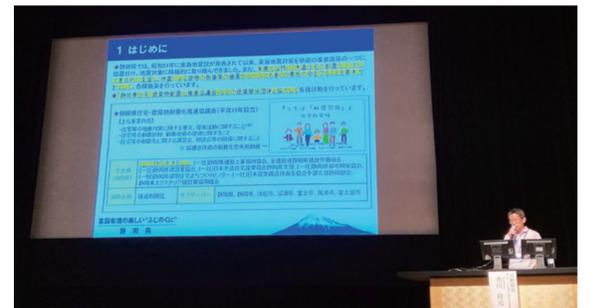
2022(令和4)年度には耐震化を後押しするためのテレビCMを放送したほか、引き続き、戸別訪問、ダイレクトメール等による周知啓発の取り組みを積極的に進めていきます。また、資金面等の理由により耐震化に踏み出せない世帯に対しては、耐震補強以外の命を守る対策として、防災ベッドや耐震シェルターの設置を誘導していきます。

なお、総仕上げの一環として2022(令和4)年

度に広報に関する取り組みを強化した結果、2022(令和4)年度の補助事業実績は、耐震診断が2,497戸となり前年度比で46.3%増加したほか、耐震補強工事への助成が640戸と、2017(平成29)年度以来5年ぶりに増加しました。

そこで、年度内における耐震診断等の円滑な実施にあたっては、特に建築士会との調整が重要となり、その他の建築関係団体を含む関係者の皆様から多大な御尽力をいただいたところです。

今後は、大幅に増加した耐震診断の結果を着実に耐震補強工事に結び付けるほか、耐震化以外の「命を守る対策」を周知するため、引き続き関係者の皆様と連携したさまざまな取り組みを進めていきます。



活動報告の様子

分科会報告

A分科会 参加者…会場51名、オンライン25名

あつまれ～旅好き建築女子! 「魅力ある和の空間ガイドブック」part5

連合会女性委員会では、2016年から『和の空間』をテーマに取り組み、「魅力ある和の空間ガイドブック（WEB版）」を同委員会HPにて公開しており、今年また少しリニューアル致しました。今回は、現在も飲食店や宿泊、交流施設などで活用されている建物を発表して頂きました。

群馬建築士会、松本あい子さんからは藤岡市にある絹の取引を行う絹宿として創業した柏屋旅館の敷地内にある、明治に建てられた2棟の蔵を繋げて現在は鰻を中心とした食事処として再生された「蔵・柏屋四郎右衛門」の紹介をはじめ、絹市でにぎわったこの商店街の歴史を振り返りながら、まち歩きができる「まちなか絹市歴史散歩マップ」、近郊の観光スポットや温泉、2014年に世界遺産登録された「富岡製糸場と絹遺産群」、隈研吾建築都市設計事務所の富岡市役所など建築女子の気に

なる建物をたくさん、紹介して頂きました。

香川県建築士会、村上良枝さんからは、大正期に建てられ昭和初期頃まで料亭として使われていた古民家を、最小限の改修にとどめ当時の趣をそのまま残し、現在ゲストハウとして再生・活用されている古民家ステイ「香露軒」をはじめ、そのかわいにある豪商・事業家・政治家などとして三代にわたって完成した大邸宅「合田邸」を紹介して頂きました。合田家に施された泰山タイルはとても美しく必見です。

その他インスタ映えスポット、瀬戸内の島々に点在する美術館やアート、お勧めのグルメ情報まで香川県の魅力を余すことなく紹介頂きました。

後半は、魅力ある和の空間ガイドブックの活用事例として、県をまたいで見学会を開催、会員同士の交流の一環として見学会を取り入れている、街歩き見学を通して地元を見直すきつ

コメンテーター…松本あい子(群馬建築士会)
村上良枝(香川県建築士会)

司会…齊藤裕美(北海道建築士会)

アシスタント…川田 朱(北海道建築士会)

かけになっているなど、会員向けの事業はもちろん、一般の方向けに知ってもらう方法として、地元の百貨店の展示スペースでパネル展を毎年開催している、地元の抜粋版をつくり道の駅やガイドブック掲載施設に置いているなど全国各地からさまざまな活用事例報告を頂きました。

今回初めて冊子となりたくさんの方々の思いが詰まった1冊となりました。会場からは取材先の施設にも贈りたい、一般の方にもっと知って活用頂けるようぜひ増刷して欲しいという嬉しいお声を頂き、閉会となりました。

(齊藤裕美／北海道建築士会)



A分科会の様子

B分科会 参加者…会場39名、オンライン10名

バリアフリーのまちづくり／みんなで考えるバリアフリー

建築士とバリアフリー観光案内のエキスパート、最強のふたりが二人三脚で福島市内外の観光地バリアフリーチェックで気づいたこと、さまざまな問題点など事例を交えて報告を頂きました。障がいのある方は観光に何を期待し、何に不安を抱いているのか、自身も障がいがあり、数多くのバリアフリーの観光案内をする佐藤由香利さんに実際あった困ったこと等お話を伺いました。また、観光施設の方から相談を受けることも多く、既存であれば現状調査をしバリアフリー化のアドバイス、設計段階であればプランの変更も提案しているとのこと。そのうちの一例として、バリアフリールームへの改装時、基本設計の図面ではガイドラインに則り出入口の幅やスロープなどはあるものの、疑問の多い設計だったものを、平面図、展開図に車いすを入れることを提案。実際には車いすが通れないこと、

また、エキストラベッドやシャワーキャリーを使う場合もあることを設計者に伝えて動線を整理してもらった結果、理想に近い施設の実現に繋がったそうです。ただ、完成後にいざ入浴してみたら浴槽が深すぎて立ち上がれなくなってしまったそうで、「平面図では高さ、深さがわからなかった」と由香利さんに言われ、設計においてより丁寧な説明が必要だと気付かされました。

質疑応答、意見交換では、浴槽の深さの具体的は寸法について、改修に至るまでのプロセス、目や耳の不自由な方についてはどうか、行動障がいに対する配慮に関して等、たくさんの質問がありとても活発な分科会となりました。コメンテーター二人の掛け合いが最高でした。

最後に、由香利さんが伝えきれなかった思いをここで代筆します。

「建築士の皆さんは観光施設、宿泊施設に携

コメンテーター…佐藤玲子(福島県建築士会)
佐藤由香利(福島市観光コンベンション協会)

司会…鈴木深雪(福島県建築士会)

アシスタント…菅野真由美(福島県建築士会)

わることが多いと思います。携わられた施設のバリアフリーの状況をHPやSNSなどで写真付きで紹介してもらいたいです。また、段差等があったとしても、その段差がどの程度なのかを知りたく、バリアの状況によっては利用できる障がいの方もいらっしゃるのでは是非写真付きで発信して下さいますようお願いいたします。」

(鈴木深雪／福島県建築士会)



B分科会の様子



当日配付資料「ふくしまのおもてなし～入門編～」

例)車いす対応トイレのウォシュレットボタンが届かない



C分科会 参加者…会場48名、オンライン9名

「いばらき木造塾」～伝統技術の継承～

第一部篠根玲子さんからは「木造塾」を開講するにあたり、企画した目的や準備会発足、講座等の内容や「建築士の育成」の取り組みについてご報告いただきました。いざ「四号特例」が廃止されたときに建築士として構造図が書けない……などということがあってはいけません。そこで木造建築や木材等に関する技術・知識を習得し、木造住宅の設計に精通した建築士を育成する目的で「木造塾」が開講されたとのことでした。小委員会の発足から約半年かけて講師の選定をし、他県の活動も参考にしながら講習会の内容やスケジュール、受講料などを決めていったとのこと。講座は、敷地の使い方、間取り、木構造だけでなく、環境や省エネ、見学会や実習、宿題や演習と盛りだくさんの内容でした。

第二部轡田久恵さんからは、受講生の立場から「塾を受講してからの広がり」ということで、5年間通い学んだこと、受講終了後の活動

についてもご報告いただきました。木造住宅の奥深さ、和の暮らし、文化について考えるよい機会にもなったとのこと。講義後の設計課題添削では、先生からのコメントで真っ赤だったといいますが、構造から間取りを考えていく手法で設計をすることにより金物に頼らない強い建物をつくることができるという考えは、素直に入ってきたとのことでした。

座学の他にも体験型の実習やカリキュラムが組まれており、一年目二年目と成長していった塾生たちが、課題提出に苦勞しながらも本気で木造建築の勉強に取り組む様子をうかがうことができました。「木造塾」は、木造の特性を踏まえ体系的に木造住宅を習える場所だったようです。

質疑応答では、他県の取り組みについて意見交換が行われ、岐阜・三重木造塾においては「誰の話が聞きたい？」的な感じから入り、「聞きたい」を楽しんで活動しており、栃木では木

コメンテーター…篠根玲子(茨城県建築士会)
轡田久恵(茨城県建築士会)

司会…小貫弘巳(茨城県建築士会)

アシスタント…平山香菜子(茨城県建築士会)
平沼清美(茨城県建築士会)

造塾を3年間企画したあと、今年度から月1回、自主的に勉強会を立ち上げたとのことでした。近年プレカットの普及率も高くなり、コロナ禍で建築資材が高騰し現場は厳しい状況が続いていますが、伝統工法の魅力を知り技術を伝えられるような場がもっとあったらいいなと思いました。(小貫弘巳/茨城県建築士会)



C分科会の様子

D分科会 参加者…会場54名、オンライン9名

「住まい・まちづくりを考えよう」 ～小中学生の住教育出前講座～

この講座は、平成15年から大阪府の呼びかけで建築関連団体が集まって組織された「大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会」により運営されており、現在まで述べ183校に出向かれた実績があります。「気候や文化による住まい方の違い」「熱環境」「バリアフリー」「防災」「ユメのイエを作る」「先生に向けて」といった講座のメニューに対し、クイズにして考えさせる、サーモグラフィーカメラを使って目で見て理解させる、障がい者の介助やブラインドサッカーの体験、防災グッズやユメイエの工作など、子供たちが興味をもって取り組める工夫の数々や、子どもたちのいきいきとした楽しい反応を紹介していただきました。

質疑応答では、各県で子どもと住教育に携わっている方々からの突っ込んだものが多く、

講座を継続させていくための講師の育成、運営経費、学校との打ち合わせのやり方、年齢に合わせたカリキュラムの選定方法など、さまざまな質問をされていました。講座内容は最初から完成されたものではなく、問題にぶつかるごとに、また子どもたちの様子を見ながらブラッシュアップされており、今後もそうしていきたいとお伺いしました。

子どもたちからの感想の中に「将来建築家になりたい」といううれしいものもあるようですが、この講座の目的としては、「自分をとりまく住環境に興味と関心をむけ、与えられるだけのものではなく、より良く変えていくための自主的な判断力や行動力を育むきっかけになって欲しい」と締めくくられました。

(山本規子/奈良県建築士会)

コメンテーター…竹田敦子(大阪府建築士会)

司会…山本規子(奈良県建築士会)

アシスタント…曾我部千鶴美(大阪府建築士会)



D分科会の様子

E分科会 参加者…会場35名、オンライン5名

「徳島型気候風土適応住宅」基準策定への取り組み

いわゆる建築物省エネ法の改定によりすべての新築住宅に外皮性能基準への適合義務が課されると、日本の伝統工法による住宅は建築が不可能になると予想されます。それを回避する方策として、所管行政庁が地域の気候及び風土に応じた住宅であることにより外皮性能に適合させることが困難であると認める「気候風土適応住宅」については適用外とされました。島田氏からは、地域で活動する建築士として地域の建築文化を次世代に継承するために必要な認定基準を探る取り組みを紹介いただきました。

行政や県内木材関連団体他と協力し、2016年度は「徳島型気候風土適応住宅板倉モデルの企画開発」、2018年度は「徳島型気候風土適応住宅に関する研究」として温熱環境調査と外皮性能比較を行ったこと。同年に徳島県委託事業として伝統工法による建築を実践している建築技術者(主に大工職)に対面で聞き取り調査を行ったこと。2019年の徳

島県委託事業では、県内の伝統的建築物9棟を抽出し現地調査を行い分析した結果、徳島の伝統的建築様式である「夏を旨とした住まい」や「台風による風雨への備え」を担保するには県独自の認定方法を定めるのが望ましいという結論に至ったこと。そして2021年に県内建築関係4団体で開催されたフォーラム「省エネ時代のとくしまのすまいとくらし」において「地域独自の建築文化を守ることはそこにはかない魅力的な景観を守ることであり、地域の気候風土に根ざしたまちなみは人々の愛着を生み、その地域に暮らしたいとの魅力にもつながるものである。」という共通認識が提唱されたことのお話を伺いました。

こうして一旦まとまった県独自の認定基準ですが、国交省との協議で「外皮性能に関わらないものは対応しない。再検討の必要在り」との判断が下されたとのこと。今後は国交省と交渉を続けながら、まずは県独自基準の要旨につい

コメンテーター…島田めぐみ(徳島県建築士会)

司会…高源真由美(徳島県建築士会)

アシスタント…濱田知佐(徳島県建築士会)

て先行している他県と連携をとりつつ検討していくということです。質疑応答では「地域産材の利用、大工や左官といった技術の継承、地場産業の保護なしには伝統的建築は成立しない」ことを今後それぞれが意見していこうという話になりました。(高源真由美/徳島県建築士会)



重伝建出羽島の民家



E分科会の様子

F分科会 参加者…会場33名、オンライン6名

「灯台が照らし出す未来への道すじ」

豊予海峡は九州の東部大分県と四国の西部愛媛県の海峡で潮の流れが速い難所です。ここに面する大分県佐賀関半島の岬に明治時代に建設された鉄造りの関埼灯台を地域活性化の核にしたいと大分市からの委託を受けて大分県建築士会が令和3年よりヘリテージマネージャーを中心に調査報告を行いました。その結果、令和4年に登録有形文化財に指定され、登録記念イベントを開催しました。F分科会では一連の調査から登録記念イベントまで携われた小関公香さんにお話ししていただきました。

全国には約3,000基の灯台が存在しているが、ここ10年間で約110基以上が役目を終えて廃止されているとのことでした。関埼灯台のある佐賀関町の地域背景や特色、灯台の概要や特徴等を説明していただきました。関埼灯台は、鉄板を曲面加工してリベット留めした鉄造り構造で、同じ構造の灯台は関埼灯台を含

め全国に4基のみ存在するとのことでした。文化財登録までの調査内容、報告書提出から文化財登録までの流れの説明の後、昨年11月に開催した登録記念イベントの様子や灯台の書籍「灯台から考える海の近代」を執筆された金沢大学准教授の谷川竜一氏と雑誌『灯台どうだい?』編集長の不動まゆう氏の講演内容を紹介していただきました。まとめでは、近年における灯台の文化財登録の動向や大分県内で他にも存在する明治期の灯台を紹介、今後の展望の提言がありました。

その他の活動としてヘリテージ研修、職人調査リスト作成、木育の取り組み、素材研究会、和の住まいをつくろう、ものがたりある友情の家の活動、女性技能者の会についても紹介していただきました。

質疑応答および意見交換では、登録記念イベントでお越しいただいた金沢大学の谷川先生

コメンテーター…小関公香(大分県建築士会)

司会…高橋由美(大分県建築士会)

アシスタント…松田まり子(沖縄県建築士会)

に感想や今後の展望のご意見をいただきました。その他、北海道で火の見櫓を調査されている方から年代根拠やメンテナンス等の質問、山形県建築士会の方から酒田湊の木造灯台のご紹介があり、大変興味深いご意見をいただきました。

今回の分科会で、役目を終えた古き良き建物の未来を考えるきっかけになったと思います。

(高橋由美/大分県建築士会)



F分科会の様子

呈茶

日時…令和5年7月29日(土) 12:00~14:15

場所…金沢市文化ホール 茶室「閑清庵」

参加者…85名

7月29日(土) 開会式前に茶席が設けられ、金沢らしい文化に触れながら、開会式前のひとときをお過ごしいただきました。今回は、大会テーマにある「伝統工芸」にちなみ、山中塗などの道具が取り合わされました。開催県である石川県建築士会女性委員会は、茶室見学とお茶会を長年継続して行っており、会員からも人気のある活動のひとつのことです。当日は参加者にその雰囲気を感じてもらえる良き機会となりました。



エクスカーション

日時…令和5年7月30日(日) 13:30~16:30

石川県建築士会女性委員会では今回の大会テーマである「伝統工芸と建築」について考えていくためのひとつの取り組みとして、伝統工芸や手仕事を実際に体験し、実体験をもって学ぶ勉強会を開催しています。

今回はエクスカーションとして4つの工芸・手仕事体験に加え、建築物見学として、1年前に開館した「石川県立図書館」の見学ツアーを行いました。

[1コース]

金沢表具体験

場所…金沢職人大学校

参加者…11名

県内の表具職員たちが研究会を結成し、「雪吊り」「加賀野菜」や金沢町家特有の格子「キムスコ」など金沢らしい模様や素材を用いてデザインし、2013年にブランド化された「金沢からかみ」でインテリアパネルを作成しました。体験は、金沢職人大学校の工房で行われ、模様付けの作業など、実際に職人さんから手ほどきを受けながら製作を行いました。



[2コース]

加賀水引体験

場所…金沢町家 蒼風庵

参加者…13名

鶴亀や松竹梅などの立体的な造形で結納品や祝儀袋を飾る水引細工。今回は色とりどりの美しい水引を使用し、オリジナルアクセサリーの製作体験を行いました。手仕事によりどんどん形づくられていく様子を楽しみながらの充実したひとときとなりました。会場である「蒼風庵」は築90年の金沢町家で、間取りや木製建具、調度品などは当時のものが残り、金沢を感じる空間での体験となりました。



[3コース]

加賀友禅体験

加賀五彩(臙脂・藍・黄土・草・古代紫)の濃淡を使い分け、花や鳥など自然をモチーフにした古典的な図案で描かれる加賀友禅。模様を写実的にみせる「外ぼかし」と「虫食い」が特徴です。加賀友禅の作業工程の説明を受けたあと、その工程のひとつでもある「彩色」を体験しました。皆さん、素晴らしい集中力で描かれていました。

場所…茜や

参加者…12名



[4コース]

呈茶体験

『魅力ある和の空間ガイドブック』でも紹介されている金沢城公園玉泉院丸庭園「玉泉庵」で、「庭屋一如」庭と一体化した空間で一服を頂きながら、和室からの庭園の眺め、石川県産や城内産の素材・材料がふんだんに使用された空間をご堪能いただきました。鼠多門などの金沢城内の復元整備された建物も見学しました。ちょうど、素屋根を組んで工事中だった三十間長屋の屋根改修のお話や、鉛瓦の工程を動画で説明してもらうなど、充実した体験・見学となりました。

場所…金沢城公園 玉泉庵ほか

参加者…8名



[5コース]

石川県立図書館 見学ツアー

令和4年7月に開館し、美しい図書館、として話題の石川県立図書館を見学しました。最初に、整備に携わった石川士会メンバーより、本のページをめくるイメージの外観、円形劇場のような大閲覧空間、従来の図書分類ではなく12のテーマごとに本の表紙を見せる形で配架し、思いもよらない本に出会う楽しみ、を感じられるように設えられた閲覧エリア、厳選されたさまざまな種類の家具、そして整備時のエピソードも含め説明を受けました。その後、各々が自由に館内を見学し、基調講演頂いた大場先生が関わった伝統工芸の壁面装飾や加賀五彩を用いて案内されている館内など、今回のテーマ「伝統工芸と建築」を感じる見学会となりました。

場所…石川県立図書館

参加者…84名



全建女石川にご参加・ご支援いただき
ありがとうございました!

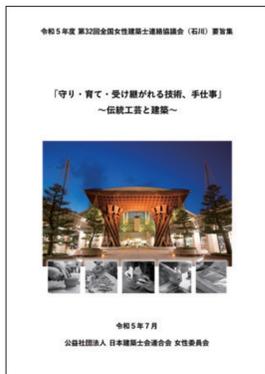


石川県建築士会スタッフ

日本建築士会連合会 女性委員会 ホームページのご案内

全国女性建築士連絡協議会の動画や要旨集データ、魅力ある和の空間ガイドブックWEB版などを掲載しています。ぜひご覧ください。

令和5年度 第32回全国女性建築士連絡協議会(石川)



日本建築士会連合会 女性委員会 HP

<http://kenchikushikai.or.jp/torikumi/jyosei-iinkai/index.html>



畳でおもてなしプロジェクト

畳でおもてなしプロジェクトは、全国畳床工業会による畳の良さと共に「和の文化」を発信するための取組みです。昨年の全国女性建築士連絡協議会東京大会に続いて、今年の石川大会でもミニ畳制作体験が行われました。

ミニ畳制作は、まず畳表と畳縁を選び、下地にとめていくと約20cm角のミニ畳が完成します。会場での畳表の一番人気は天然藁草の国産畳表で、香りで癒されるとのことでした。

